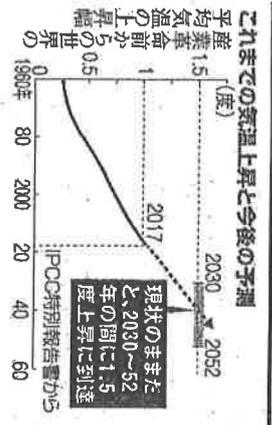


最速 2030 年に 1.5°C 上昇 世界は

温暖化巡り IPCC  
2°C なら影響 1000 万人増



環境

海面が最大77%上昇

今週6%生息域半減

サンゴ70~90%消失

地球温暖化が現状のまま進めば、早ければ2030年にも世界の平均気温が産業革命前の1.5度上昇する。国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が、温暖化に関してこんな予測を盛り込んだ特別報告書をまとめた。1.5度上昇すると、氷床の融解などによる海水面上昇が、2100年までに最大77%に達するなど深刻な影響を指摘している。

この報告書は、温暖化対策の国際1ルパリ協定は、産業を議論するうえでの科学的根拠となる。報告書によると、世界の平均気温は産業革命前よりすでに約1度上昇している。10年間で0.2度ほど、PCCは1.5度上昇した。場合の影響などをまとめた特別報告書を初めて作成。6日まで韓国で開かれた総会で採択し、8日に公表した。195の国が承認した。

この報告書は、温暖化対策の国際1ルパリ協定は、産業を議論するうえでの科学的根拠となる。報告書によると、世界の平均気温は産業革命前よりすでに約1度上昇している。10年間で0.2度ほど、PCCは1.5度上昇した。場合の影響などをまとめた特別報告書を初めて作成。6日まで韓国で開かれた総会で採択し、8日に公表した。195の国が承認した。

た場合と2度上昇した場合の影響を比較している。例えば海水面上昇では、1.5度の場合2100年までに、1986~2005年の水準に比べて26%だけ上昇する予測。2度上昇だとさらに海水面上昇は10%高くなるという。影響を受ける人は最大1千万人多くなるという。生態系については、1.5度上昇では昆虫の6%、脊椎動物の4%、植物の8%の種が生息域の半分以上を失う。2度上昇だと脊椎動物や植物でその2倍に、昆虫ではその3倍に影響が広がるという。

各国はパリ協定に基づき30年までの温室効果ガスの排出削減目標を定めているが、すべて達成されても気温は2度を超え、12月にはボラントで国連気候変動枠組条約締約国会議(COP24)が開かれる。IPCCの特別報告書を受け、削減目標を引き上げなければならぬ。温暖化対策が議論される。 (山村剛志、神田明美 朝日10月2日)

おかあさんがねえ、  
死にそうなんですよ。  
どうも原因はぼくにあつて、  
やめようと思えば  
やめれるんですけど、  
やめたくないんで  
見殺しにすることにしたんです。

人間はひどい息子だと母なる地球は思う。  
「ぼくは「おなた」です。親不孝はもうやめよう。

コピー賞 「親不孝な息子」

B.